



終戦直後、焼け野原と化した東京・蒲田を舞台にしたNHK連続テレビ小説「梅ちゃん先生」。そのオープニングタイトルを飾ったジオラマを製作したことで注目を集めた山本高樹さんの「昭和幻風景ジオラマ展」が、東京・日本橋の高島屋で開催された。十月二十日のトークショーには、庶民文化研究の第一人者・町田忍さんが登場！昭和を愛してやまないお二人によるトークセッションをお楽しみください。

「銭湯」が出会いの縁

町田 みなさん、こんにちは。

山本 こんにちは。

町田 本日はお忙しいところ、トークショーにお集まりいただき、ありがとうございます。今日はどんな話をするか、まったく決めてないんですが……。

山本 とりあえず、銭湯の話からしましょうか。

町田 そうですね。今日の作品の中には「明神湯」という銭湯の模型があります。どんな経緯で作るに至っ

たんですっけ？

山本 まず、「荷風」という雑誌の表紙のために作っていたジオラマの展示があったときに、初めて町田さんに会ったんですよ。

町田 それが、七、八年前。

山本 町田さんといえば銭湯研究の大家ですが、銭湯に限らず、昭和の庶民文化を広く研究されていて、ずっとファンだったんです。町田さんの本には全国の古い建物なんかもたくさん載っているんで、作品づくりの参考にさせてもらうことが多い。そういう意味では、僕にとつての「師匠」でもあります。

町田 最初に明神湯の模型をお願いしたときは、入口だけを作ってくれと言っていたんですよ。ところが、途中経過を見たら、脱衣所や浴室も作っていて、結局ポイラー室も、住宅部分も、約二百坪の銭湯をほとんど再現しちゃった。僕はひたすら費用を心配しましたよ（笑）。時間はどれくらいかかりましたっけ？

山本 入口に二週間、脱衣所に一カ月、洗い場に一カ月、釜場に二週間くらいって感じで、計約三カ月です。

町田 明神湯は昭和三十三年創業ですが、いまとなつては、貴重な建物ですよ。

山本 夏の釜場の暑さがすごすぎて、「もう今年でやめたい」と言っていました。

町田 それ、毎年言っているの（笑）。

せつかくだから、銭湯以外の話もしましょう。山本さんは「凌雲閣」、通称「十二階」も作っていますが、これは明治二十三（一八九〇）年に浅草に建った建物で、まさにいまのスカイツリーと一緒にですね。

山本 もの見た塔、ですね。

町田 ここには、日本初のエレベーターがつけました。それが実は、今日の会場である高島屋さんにあるエレベーターと同じ「オーチス」という会社のものだったようです。オーチスはエンプライアステートビルのエレベーターも作っている有名な会社で、これだけ歴史のあるエレベーターが現役で動いているところは、珍しいですよ。いまでも手動でエレベーターを止めるときの高さを微調整しているんです。

